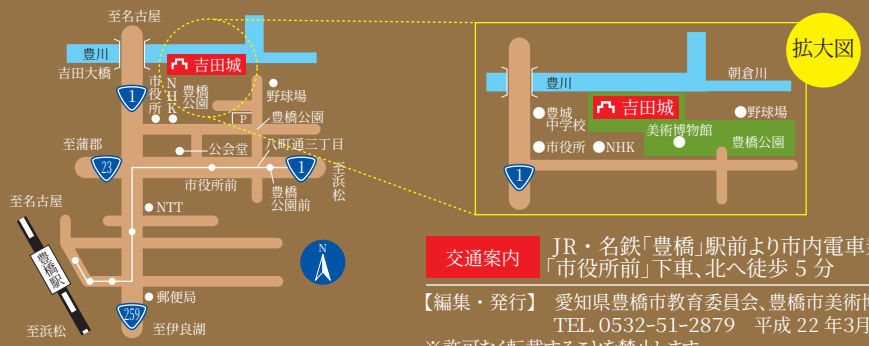
吉田城関連略年表

西　暦	年　号	事　　項	歴代城主等
1505	永正２	牧野古白、今橋城を築くという。一説には明応5年（1496）	牧野古白
1506	3	10月19日 今川氏親今橋城を攻略、戸田憲光が牧野古白を破る。	戸田憲光
1519	16	牧野成三、戸田金七郎を逐い今橋城に入る。	牧野成三
1522	大永２	牧野伝蔵信成、今橋を吉田に改めるという。	牧野伝蔵信成
1529	享禄２	この年松平清康、吉田城を攻め東三河の主部を支配下に置く。	
1532	天文元	5月28日 松平清康、牧野信成を討ち吉田城落城という。	
1536	5	12月 今川氏親、大橋知尚を吉田城に置くという。	大橋知尚
1537	6	渥美郡大崎在住の戸田金七郎、牧野伝兵衛を逐い吉田城を奪うという。	戸田金七郎
1546	15	11月15日 今川義元、戸田金七郎を逐い吉田城を攻略する。	
1564	永禄７	5月14日 吉田城代小原鎮実、松平勢と下地に戦う。 6月22日 松平家康、吉田を攻め酒井忠次に吉田小郷一円を宛がう。	酒井忠次
1565	8	3月7日 松平家康、三河を統一し、後吉田城開城される。	
1570	元亀元	豊川に土橋が架橋されるという。	
1571	2	4月28日 武田信玄、吉田城等を攻める。	
1575	天正３	5月21日 織田信長、徳川家康とともに武田勝頼を三河長篠に破る。	
1582	10	4月17日 織田信長、甲斐攻略の帰途吉田城に宿泊する。6月2日 京都本能寺の変。	
1590	18	8月1日 徳川家康、関東に転封。池田照政吉田城主となり、15万2千石を領す。	池田照政
1600	慶長５	関ヶ原合戦起こる。12月13日 池田照政、播磨姫路に転封となる。	
1601	6	2月　松平（竹谷）家清、武蔵八幡山より吉田3万石に転封となる。	松平（竹谷）家清
1603	8	2月徳川家康、征夷大将軍に任命され江戸幕府を開く。	
1610	15	12月21日 松平家清没し、忠清遺領を継ぐ。	松平忠清
1612	17	4月20日 松平忠清没し、後嗣なく絶家となる（後再興）。 11月12日 松平（深溝）忠利、三河深溝より吉田3万石に転封になる。	松平忠利
1622	元和８	11月25日 吉田城本丸御殿完成する。	
1632	寛永９	6月5日 松平忠利没す。8月11日 忠房遺領を継ぎ、翌12日に三河刈谷に転封となる。 水野忠清、刈谷より吉田4万石に転封となる（後5千石加増）。	松平忠房 水野忠清
1642	19	7月28日 水野忠清信濃松本に転封となり、水野忠善駿河田中より吉田4万5千石に転封となる。	水野忠善
1645	正保２	7月14日 水野忠善岡崎に転封となり、小笠原忠知豊後杵築より吉田4万5千石に転封となる。	小笠原忠知
1654	承応３	向山池を築立て、城下の総堀に流入させる。	
1693	元禄６	8月 吉田城下の下水道改修されるという。	
1697	10	4月19日 小笠原長重老中となり、武蔵岩槻に転封となる。 6月10日 久世重之、丹波亀山より吉田5万石に転封になる。	小笠原長重 久世重之
1702	15	8月16日 久世重之、新居関番を命じられる（以後吉田藩管轄）。	
1705	宝永２	10月晦日 久世重之下総関宿に転封となり、牧野成春関宿より吉田8万石に転封となる。	牧野成春
1707	4	10月4日 大地震により吉田城本丸御殿倒壊する。	
1712	正徳２	7月12日 牧野成央日向延岡に転封となり、松平（大河内）信祝下総古河より吉田7万石に転封となる。	松平（大河内）信祝
1729	享保14	2月15日 松平信祝遠江浜松に転封となり、松平（本庄）資訓吉田7万石に転封となる。	松平（本庄）資訓
1749	寛延２	10月15日 松平資訓京都所司代になると同時に遠江浜松に転封、松平（大河内）信復浜松より吉田7万石に転封となる。	松平（大河内）信復
1854	安政元	11月4日 大地震により城内建物倒壊多し。	
1869	明治２	2月23日 大河内信古、版籍奉還を奏請する。	大河内信古



交通案内　JR・名鉄「豊橋」駅前より市内電車乗車、「市役所前」下車、北へ徒歩５分

【編集・発行】　愛知県豊橋市教育委員会、豊橋市美術博物館
TEL. 0532-51-2879　平成 22 年3月 31 日
※許可なく転載することを禁止します。

東海の名城

吉田城

YOSHIDA CASTLE

明治初期撮影　鉄櫓はなく、入道櫓・川手櫓が見える。

現在の吉田城　昭和 29 年に鉄櫓が復興された。

吉田城案内図

❶ 本丸
四隅に櫓を配し、中央には宝永大地震（1707）で倒壊するまで、将軍上洛時の宿所にした御殿があった。

大手門〈明治初期撮影〉

❿ 鉄櫓
吉田城で最大の櫓、古絵図には、天守と描かれたものが何枚かある。

❷ 池田期の石垣
池田照政（輝政）が造ったとされる吉田城最古の石垣。

❾ 着到櫓跡
城内に集まった兵士を観察・点検するための櫓。

❸ 腰曲輪
豊川に面した部分の防御のために造った曲輪。

❹ 本丸南御多門跡
本丸の正面入り口にあった門。

❺ 金柑丸
今橋城の本丸跡と言い伝えられている。

❻ 二の丸御殿跡
歴代の城主が住んだ御殿があった。

❼ 三の丸土塁
堀を掘ったときにでた土を積み上げて造った土塁。

❽ 水門
豊川から城内に物資を運び入れた船着場。

今橋城と戦国時代

今橋城築城以前には、土着の武士の渡辺平内治の屋敷や浄業院という寺があったとされており、今橋城築城に際して移転したとされている。

吉田城の歴史は、永正2年（1505）、豊川の一色城主・牧野古白により今橋城が築かれたことに始まる。この時の対抗勢力は田原の戸田氏で、今橋城より東にある二連木城の城主であった。大永2年（1522）、今橋は吉田と改名され、吉田城は戦国時代の争乱の中で、今川、武田、松平（徳川）ら戦国武将により激しい争奪戦が繰り広げられた。現在の金柑丸が今橋城の本丸であったという言い伝えがあり、豊川を望む台地の縁辺部に沿って郭が連なる形であったと考えられている。

●吉田城航空写真　空から本丸を見る。

●戦国時代の堀

●土師器皿
戦国時代の土師器の皿、儀式に使われたもの。

●牛久保密談記

●牧野古白吉田城縄張之図

江戸時代の元禄 14 年（1701）に中神善九郎行忠が書いた「牛久保密談記」によれば、牧野古白が今橋城を造ったときの逸話として、「馬見塚ノ岡」を検分し、豊川の「入道瀬」を埋めたてた難工事だったことが記されている。

●初期吉田城の遺物
15～16 世紀ごろの陶磁器や瓦

酒井忠次と池田照政（輝政）

吉田城は牧野古白の今橋城築城以来、幾度となく争奪戦が行われたが、永禄7年（1564）に松平家康（徳川家康）が今川方の吉田城代小原鎮実を攻め、吉田城を攻略し、酒井忠次を吉田城主に置いた。酒井忠次は吉田城を改築し、新たに堀を造った事が発掘調査で明らかになっている。また、当時の大手は飽海口であったとされており、東側が正面になる構造であった。

●吉田城航空写真
鉄櫓（昭和 29 年復興）と石垣（池田照政築造）

●酒井忠次の堀
断面がV字形の薬研堀

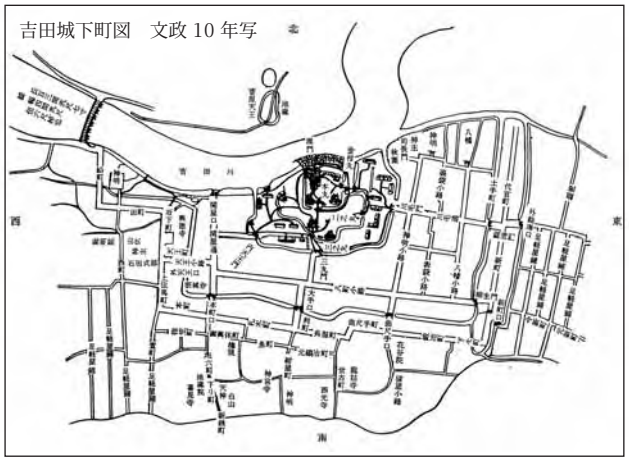
●江戸時代の堀
着到櫓下の二の丸の堀と石垣

●織豊期の遺物
16 世紀後葉の陶磁器、摺鉢や皿

●戦国時代（中央）と江戸時代（右）の堀

羽柴秀吉の配下である池田照政は、15 万 2 千石という石高で吉田城の城主となり、吉田城をこの石高に見合う大城郭に改造した。照政時代の遺構には鉄櫓下の石垣があり、当時としては最新の技術で積まれた石垣は織豊系城郭の象徴的な存在である。照政は家康の娘・督姫を娶り、慶長5年（1600）の関ヶ原合戦後に 52 万石で姫路へ転封となり、輝政と改名し、現在、世界遺産となっている姫路城を築いた。

●池田輝政画像（林原美術館蔵）



●吉田城下町図

●江戸時代の食器
陶磁器や漆器、箸や匙

吉田城の発掘調査

吉田城址は、東西 1,400m、南北 600m、総面積 84 万㎡にも及ぶ、市内最大の遺跡である。これまでに 38 回（平成 21 年度まで）もの発掘調査が行われた。しかし、その面積は遺跡全体の 3%程度である。

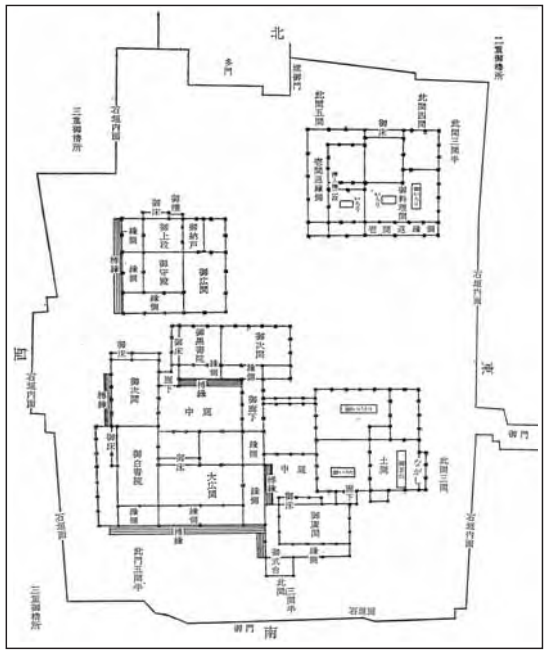
吉田城（今橋城）築城以前は、縄文時代から中世にかけての遺構や遺物が発見されている。特に古墳時代前期の古墳、古代の渥美郡衙（郡役所）や、中世の吉田宿の存在が推定されている。豊川と朝倉川の合流点で最も標高の高い所に位置し、古来からの交通の要衝である。

●奈良時代の総柱建物

●水神の祭祀跡（13 世紀）
土器とともに馬の頭が供えられていた。

●地鎮具（戦国時代）
板の上に銭が3枚乗せられていた。

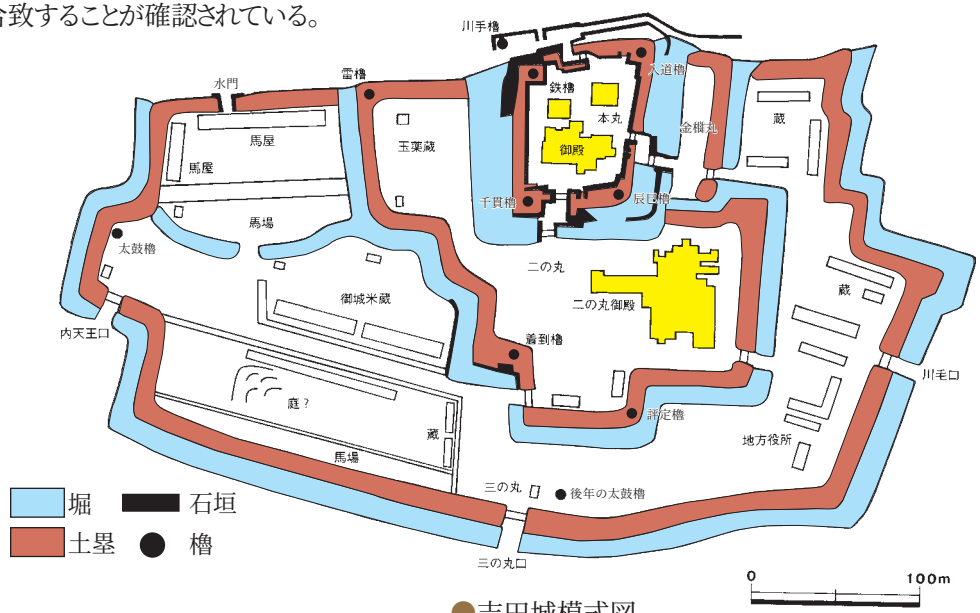
●今橋城築城以前の出土品
古墳時代の銅鏃、平安時代の緑釉陶器などが出土した。



●御本丸御殿御屋形絵図
本丸御殿の絵図面（模式図）

近世吉田城は本丸と二の丸に御殿が造られ、三の丸には御城米蔵、馬場等の施設が造られた。三の丸の外側を家臣団の屋敷が取り囲み、さらにその外側を総堀が大きく取り囲んでいる。

発掘調査ではこれまで文献記録には残っていなかった戦国時代の様子が明らかになりつつある。戦国時代の堀や屋敷地を区画する溝が見つかっており、堀の周りに溝で区切られた家臣団の屋敷地が廻る構造であった。これに対し近世の吉田城は、池田照政による大規模な改修を受けたことや、発掘調査によって明らかになった家臣団の屋敷が江戸時代の吉田城絵図とも合致することが確認されている。



●吉田城模式図
近世吉田城の建物配置の略図

●鯱瓦と家紋瓦（吉田城城主）
三階菱（小笠原家）、丸に並び鷹の羽（久世家）、丸に沢瀉（水野忠清）

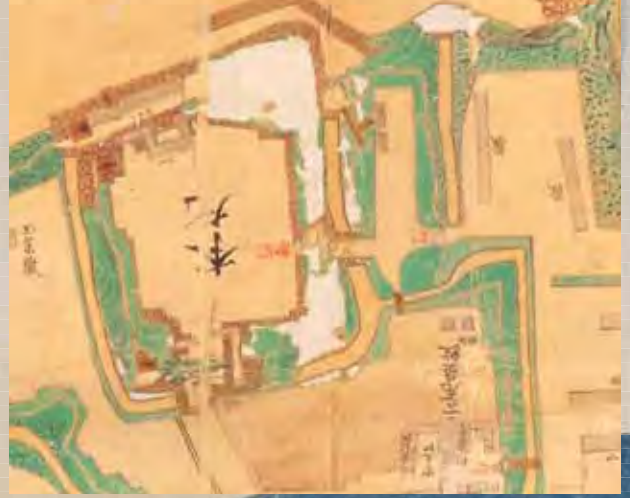
●藩士屋敷地の八幡小路
（現在の陸上競技場の南西あたり）
2本の側溝を持ち、砂利で舗装されていた。

吉田城絵図

吉田城絵図は約70点が確認されている。その所蔵状況を見てみると、写本などが全国各地に存在するものを除けば、東は茨城県笠間稲荷神社から西は広島市立中央図書館が、現在吉田城絵図の確認されている範囲である。

これら絵図の中でも注目されるものが何点かあるが、現在鉄櫓が建つ位置を「天守」と記すものが数点あること、これは鉄櫓が実質的には天守の役割を果たしていたことを意味する。

各絵図の信憑性は様々であるが、吉田城解明についてその情報を絵図にしか求めることができない場合もあり、発掘調査等とあわせ吉田城絵図の果たす役割は大きい。



●吉田城古図
（部分、笠間稲荷神社蔵）

鉄櫓のところに「天守」と書かれている。

●三河国吉田城絵図
（地震之節破損所之覚）
豊橋市指定有形文化財
（豊橋市蔵）

●吉田城本丸二之丸略絵図
豊橋市指定有形文化財（豊橋市蔵）

●吉田藩士屋敷図（部分）
豊橋市指定有形文化財（豊橋市蔵）

石垣と刻印

吉田城の石垣は、往時も本丸とその他数か所で他は土塁であった。石垣のうち鉄櫓下の北面と西面の石垣は、池田照政時代のものといわれ、吉田城石垣中最古のものであるとともに、江戸時代の二度の大地震の際にも被害のなかった石垣である。

また、石垣の石のうち花崗岩には○、△、□などの印が彫られているが、これが石垣刻印で、これまでに大名や家臣などの印が、本丸の南北御多門付近を中心に約60種確認されている。ここでは、その位置図と現在でも確認が可能な約30種の中から比較的容易に探すことができる刻印を紹介する（位置図と写真の番号は一致する）。

各地の城の多くの刻印は幕命による天下普請の城に見られるものであるが、ここ吉田城に見られるのは名古屋城築城用の残石を転用したためと考えられている。

Ⓐ 鉄櫓跡下石垣

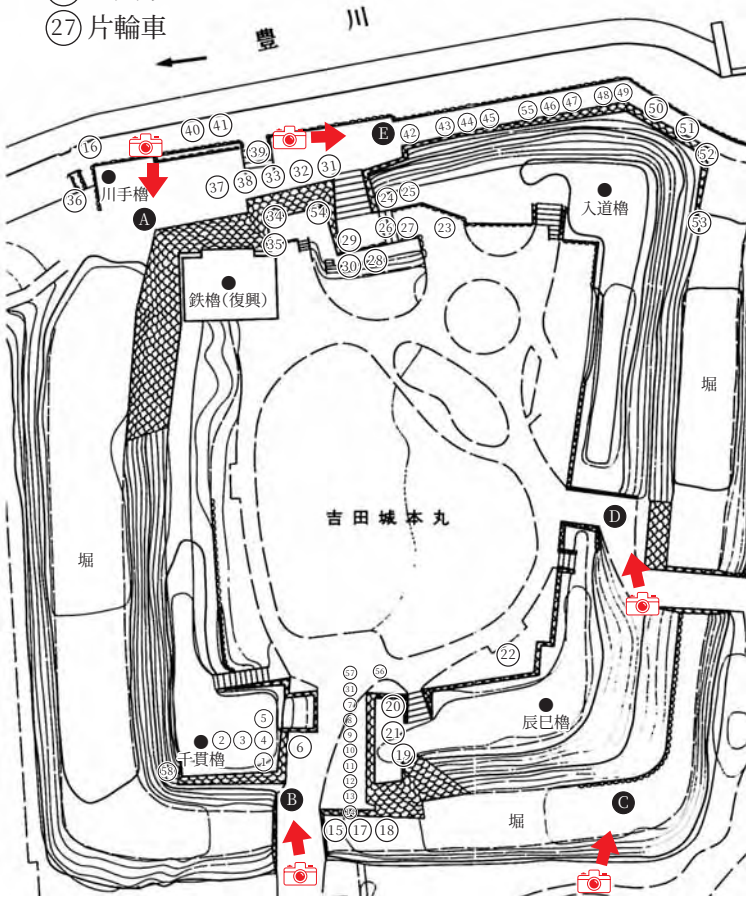
② 三枚餅
③ 桝
④ 土佐カナ書

① 松武蔵（松平武蔵守）

㉖ 一文字一星
㉗ 片輪車

Ⓔ 腰曲輪石垣

㊷ 二引両
㊸ 土佐カナ書
㊹ 百々の略



㊾ 重桝

㊼ 裏銭

Ⓓ 裏御門石垣

㉒ 一文字鱗

㊶ 一カギ団子

Ⓑ 千貫櫓跡下石垣

Ⓒ 辰巳櫓跡下腰巻石垣

⑳ 丸一文字
㉑ 三金輪

吉田城由来の文化財

大河内松平氏の祖は知恵伊豆として有名な伊豆守信綱で、その曾孫信祝が最初の吉田城主となった。信祝は浜松に移ったが、その子信復の時再度吉田に移り、計8代、約160年にわたって吉田を治めた。譜代大名の中でも由緒ある同家からは、老中など幕府の要職に就く者もあり、中でも信明は松平定信の後を受け老中首座として寛政改革を推進したことで知られている。

同家は歴代学芸方面に造詣が深く、多くの遺品が今に伝えられており、これら古文書、書画、什器等は同家から豊橋市美術博物館等に寄託されている。

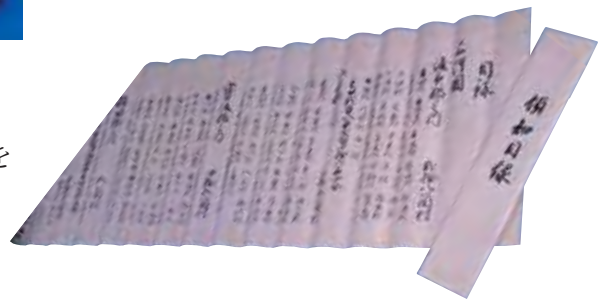
●松平信明書

●紋散牡丹唐草角赤

●紋入梨子地音川蒔絵香盆

●松平信古筆
十長生図

●松平信祝筆
真菰苅賛図



●領知目録
吉田藩の領地と石高を記した書付

浮世絵に描かれた吉田城

吉田城の櫓に足場が組まれ、そこから街道沿線を眺める人物や、白壁塗りに取り組む職人を配した、おなじみの歌川広重「保永堂版東海道五拾三次」をはじめ、江戸時代には多くの絵師が東海道シリーズの浮世絵版画を制作した。広重だけでも20数種類描いたといわれる。

吉田の題材として多く取り上げられたのは、吉田城と吉田橋である。江戸時代、東海道で橋が架けられていたのは、吉田橋と岡崎の矢作橋、琵琶湖に架かる瀬田橋の三か所であった。よって、地域色豊かで画題として多く採用された。また、川に隣接して城があるという立地から、二点セットで描かれることが多く、東海道の名所の一つとなった。

●東海道五拾三次之内　吉田（保永堂版）
天保年間初期　歌川広重

●東海道　吉田（東海道名所風景）
文久３年（1863）二代歌川広重

●末広五十三次　吉田
慶応元年（1865）五雲亭貞秀

●東海道五十三次之内吉田（行書版）
天保年間後期　歌川広重